

CAMPUS 八戸学院

vol.48

四者連携協定締結

カーテル科学教育財団 学校法人光星学院
語学学校CNE1 株式会社八戸学院グループ

外国人向けアプリ

「Hachinohe Info」配信開始

八戸学院大学 グローバル英語ゼミ

学校法人光星学院60周年記念

カンボジア研修旅行

～タサエン村訪問記～





四者連携協定締結



カーテル科学教育財団 学校法人光星学院
語学学校CNE1 株式会社八戸学院グループ

[1月19日 美保野キャンパス]



左から：ガーリー・アレナス CNE1 代表、カリート・アレナス カーテル科学教育財団理事長、
法官新一 理事長、大谷真樹 (株) 八戸学院グループ社長

この度、学校法人光星学院は、フィリピンのカーテル科学教育財団、同財団が運営する語学学校CNE1と(株)八戸学院グループの四者において、連携協力協定を締結し調印式を行った。会見で法官理事長は「四者がそれぞれ持つ分野を連携することで国際社会で活躍できる人材を育成したい」と述べた。今年6月、フィリピンに「八戸学院カーテル校」が開校する運びとなっている。日本と日本文化を学ぶカリキュラムも導入し、さらに日本で学びたい学生をサポートする。また、日本企業への就職、介護やIT企業の人材育成につながるものと期待する。語学学校CNE1では、様々な国から学生を受け入れており、異文化体験から国際共通理解が得られるなど国際的視野の拡大につながる。



国際語学学校 CNE 1

今後は大学生、短大生、高校生の語学留学を積極的にサポートすると共に、両校の交流が活発に展開されることを期待する。

CONTENTS

- 3 四者連携協定締結
カーテル科学教育財団 学校法人光星学院
語学学校 CNE1 株式会社八戸学院グループ
- 4 学校法人光星学院
平成 30 年「八戸学院新年の集い」
- 5 外国人向けアプリ
「Hachinohe Info」配信開始
八戸学院大学 グローバル英語ゼミ
- 6 学校法人光星学院 60 周年記念事業
カンボジア研修旅行
- 8 八戸学院 NEWS
- 14 イベント情報
- 15 図書空間
- 16 八戸学院イノベーションプログラム (基金) 報告
- 18 理事長散策

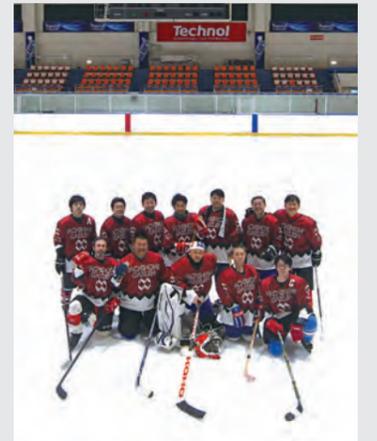
教職員アイスホッケー 八戸学院連合チーム



毎年、教職員の親睦を目的に行われている「青森県教職員アイスホッケー大会」は今年で41回を数えます。第1回大会は、光星高校単独チームでしたが、大学・短大の先生や事務職員、実習等で交流のある養護学校の先生が加わり、現在の「八戸学院連合チーム」となりました。選手層も24歳から60歳までと幅広く、水都八戸ならではの交流の場となっています。チームメイト募集中！

CAMPUS 八戸学院

vol.48



表紙

教職員アイスホッケー「八戸学院連合チーム」昨シーズンは「第40回青森県教職員アイスホッケー大会」Aリーグ優勝、今シーズンは「第22回八戸市教職員アイスホッケー大会」Aリーグ準優勝と快進撃は続きます。

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院光星高等学校専攻科
TEL 0178-25-6322
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二ののめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

平成30年「八戸学院新年の集い」

【平成30年1月5日 八戸プラザホテル アーバンホール】

外国人向けアプリ 「Hachinohe Info」 八戸学院大学グローバル英語ゼミ

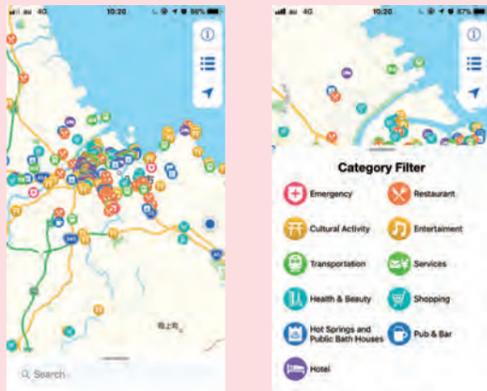
配信開始



地図上のアイコンの図案など様々なアイデアが黒板から生まれました

英語版のアプリ開発を！
2014年（平成26年）八戸学院大学バリーグロスマン教授が指導するグローバル英語ゼミでは、三八地域で暮らす外国出身者や旅行者に情報を知らせる手段が十分でない事を知り、外国人に三八地域の様々な情報を英語で提供する外国人向けアプリの開発に着手しました。
最初に提供する情報の収集を始めました。集めた情報を英語に翻訳す

Hachinohe Info [ハチノヘインフォ]



11の категорияに色分けされたアイコンをクリックすると施設の詳しい情報を見ることができます。

カテゴリーは、自分が見たいジャンルだけ表示することができ、必要な情報を素早く検索することが可能です。現在、320件の情報が収容されていますが、年間100件を目標に今後も情報が追加されます。



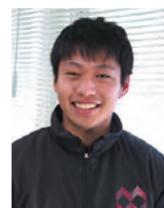
西村 璃那さん
ビジネス学部4年

る必要があるのですが、なれない作業に苦戦の連続でした。情報収集、翻訳、情報入力というように作業を分担したことで、作業効率が飛躍的に向上、3年間で200件以上の情報を集めました。
集められた情報や黒板に書き出されたアイデアは、村本卓教授、玉樹真一郎教授の協力により具現化され、外国人向けアプリ「Hachinohe Info」が完成しました。



三上 沙耶さん
ビジネス学部4年

初めての作業に悪戦苦闘
施設名や住所はデータベースの情報と合致しなくては地図上に正確に表示されません。例えば、施設名の標記「つ」が「TU」なのか「TSU」なのか、住所の標記の順番などの確認にも苦労しました。



中坂 和希さん
ビジネス学部4年

進化するアプリ
アプリについて、寄せられたコメントに学生が内容を考え英文で送信をしています。3月で4年生は卒業しますが、アプリは後輩に引き継がれ、情報の追加や機能の更新など、これからも進化していきます。



ゼミ学生とバリーグロスマン教授



【次第】

開会 12:00

新年の祈り 八戸学院大学教授 木鎌耕一郎

年頭の挨拶 理事長 法官 新一

60周年記念行事総括

事務局長 古川 聡

有限会社北の杜舎 代表取締役 村田 久 氏

八戸市公民館 館長 梶谷 伸夫 氏

祝辞

デーリー東北新聞社 代表取締役社長 荒瀬 潔 氏

みちのく銀行 副頭取 加藤 政弘 氏

祝舞（南部手踊り） 小柴榮子社中

来賓紹介

祝宴 乾杯 光星学院 監事 蓼内 真人

お開き 第二しのめ幼稚園 園長 滝田いと子

閉会 14:00

平成30年「戌年」を迎えました。
1月5日 法人の恒例行事である「八戸学院新年の集い」は、来賓、教職員総勢340名の参加を得て賑やかに開催されました。
法官新一理事長は年頭挨拶の中で「2年にわたる創立60周年記念行事は皆さんのご尽力により無事終えることができました。60年を全教職員でお祝いする機会を作りたいという思いから、今年を着座形式による開催にいたしました。法人の新たな時代への幕開けとなる2018年が、



皆が笑顔で、実り多き年となることを祈念したい。」と述べました。



小柴榮子社中による祝舞「松づくし」



60周年記念事業総括の様子

学校法人光星学院創立 60 周年記念事業 カンボジア研修旅行 平成 30 年 1 月 9 日～14 日



タサエン村訪問記



日本語学校の生徒と



創立 60 周年記念事業

カンボジア研修旅行に帯同して

記念事業推進事務局 古川 聡

学校法人光星学院は、カンボジアに井戸を掘る活動に参加する一方、平成 22 年、光星高校に一人の留学生を受け入れました。

バンバタン州タサエン村出身の留学生タン・チェンターさんは、3 年間光星高校で日本文化は勿論多くのことを学び見事卒業、その後愛媛県の大学に進学しました。

以来、タイとの国境にある小さな村タサエンから毎年短期で留学生を受け入れ、光星高校、野辺地西高校で活発な交流が行われ、9 年が経っています。

そこで、今回、創立 60 周年記念事業の一環として、世界遺産として人気の高いアンコールワット遺跡群の見学と留学生の郷里を訪ねる旅が企画実施されました。

日本の成熟した経済下での生活上の利便性と文化の違いを実体験、さらにカンボジアの中でもまだまだ開発途中のタサエン村と、観光客であふれる都会のシエムリアップを訪ねた旅は、驚きと感動の連続で参加者は貴重な体験と思いができました。

最後に今回の企画にご協力くださいました I M C C D 理事長高山良二氏に感謝いたします。

タサエン村訪問での思い出 北向 一夫

タサエン村で過ごした期間は、1 泊 2 日の短い日程であったが、とても有意義な時を過ごすことができました。それは、現地の生活様式を実体験できたこと。寝食は当然であるが、とくにトイレの使い方にはびっくりした。紙を使わないで水を使い、お尻を洗って用事を済ますことです。高山さん曰く、「現地の事を知るには、観るだけでなく、体験しないと意味がない。」と。私は、その言葉で納得をした。その後、高山さんの活動を聞いてとても感銘を受けた。地雷の処理活動では村人を訓練し、雇用し賃金を払い、生活の糧にしていること。また、日本語学校を運営し無料で村の子供達に日本語を教え留学生の支援など、カンボジアの復興に自ら先頭に立ち、目の前の問題だけでなく、先を見据えた大きく深い視野で取組んでいることには頭の下がる思いでした。これからは、高山さんの活動をアログを観て、見守っていききたい。



国際地雷処理・地域復興支援の会 (IMCCD) の皆さんと

日本語学校

黒坂 広文

カンボジアに来る前は地雷があり治安も悪く発展途上国だから…。そんな先入観をもっていました。世界遺産のアンコール遺跡群は神秘的で遺跡から見る朝焼けも素晴らしいかったです。そんな素晴らしい観光地の中、物乞いをする子供たちが沢山いました。日本の生活が当たり前の環境で過ごせることが有難く思い、胸が苦しくなりました。日本語学校では目を輝かせた子供たちが沢山いて日本語の歌で歓迎してくれました。とても上手で感動しました。学校に通えない子供たちも多く、この学校は学費無料です。日本が大好きで「日本で勉強したい」「日本で働きたい」日本人としては大変うれしき気持ちです。カンボジア人は物事を考えて取り組むことが難しいと感じますが、そんなことはないように感じました。日本にいては感じ取る事の出来なかつた素晴らしい思い出になりました。



日本語の歌で歓迎してくれました



野外での夕食

タサエン村の生活

瀧谷 昌志

カンボジア人留学生の故郷であるタサエン村は、未だ沢山の地雷があり、最初は危険な所というイメージでした。留学生宅を訪問した際、どのお宅も満面の笑みでの出迎えて、食べきれないほどの果物のおもてなしには、カンボジア人の優しさと礼儀正しさに心温まりました。タサエン村での宿泊は、カンボジアの発展に尽力をつくす I M C C D の現地事務所でした。隙間だらけの板張りの家で水洗トイレは無く、ペットボトルの水シャワーと、日本の生活とはギャップのあるお宅でした。屋外で食べる美味しいご飯、寝心地良かったハンモック、夜明けは寒く、近所から聞こえてくるお経が気になっての起床と、現地に行かないと味わえない、村の生活を肌で感じる事が出来ました。決して便利ではない所でしたが、時が経つのを忘れるほどの心地よさと、日本語学校に通う子供たちの笑顔と日本語の歌に感動し、心身ともに元気をもらうことが出来ました。

実体験から学ぶ

清水 健治

ホストファミリーと留学生達に会うべく研修旅行に参加しました。今まで 3 名の留学生を受け入れましたが、受け入れ前のカンボジアの印象は恥ずかしながらアンコールワットがある国ということしか知りませんでした。実際カンボジアに行ってみるとまず日本との明確な文明の差を感じました。シエムリアップから離れるにつれ、道路は舗装されなくなり、畑や田んぼが広がります。留学生達が住んでいる村を見てこの子達はすごいところから日本に来たのだと改めて感じました。また、留学生との橋渡しをして頂いた N P O の高山さんとも直接お話をさせて頂き、高山さんが行っている地雷除去の現場に立ち合わせて頂きました。それは私たちがいかに平和な国で生活しているかを実感させられる体験でした。貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。



高山さん(左)の事務所にて、美味しい果物でおもてなし

四年越しの夢叶う

西澤ナミ子

今回、60 周年記念事業の一つであるカンボジア研修旅行に参加でき、4 年越しの夢が叶いました。私は、カンボジアからの短期留学生を受け入れて 4 年になります。毎回「お母さんカンボジアに来てね」と言っていて帰国して行くのです。今回の研修旅行で、この目で現地の様子や生活を体験出来た事、そして 4 人の留学生のご家族と会うことが出来とても嬉しく感激致しました。シエムリアップから車で往復 8 時間、タイとの国境近くのタサエン村は、今も地雷など内戦の爪跡が残る村で農業を中心に生計を立てており、日本の 50 年以上前を思わせる様子でした。それぞれの学校が終わってから、自主的に高山さんがやっている日本語学校に通う子供たち、地雷除去の仕事に携わるデマイナーの皆さん、今の私達の生活とはかけ離れた現状に身の引き締まる思いでした。とても良い経験が出来た研修旅行でした。



留学生との再会

地連研 『ベンチャーサミット 2018in 八戸』 開催 [1/27]



八戸グランドホテルを会場に青森COC+推進機構起業実行プログラムWG(主査校・八戸学院大学)主催「ベンチャーサミット2018in八戸」を開催しました。各業界で活躍している起業家をお招きし、約150名の方々にご参加いただきました。同イベントは2010年から始まり、2012年に第2回が開催され今回で3回目。イベントでは首都圏や地方のさまざまな業界で活躍する起業家が集い、基調講演やパネルディスカッションを実施しました。スペシャルゲストとして、音楽グループ爆風スランプなどで知られるサンプラザ中野くん氏や、在札幌米国領事館領事のハービー・ヒーズリー氏も出席しました。



基調講演では、途上国の教育支援活動を展開しているNGO団体「イーエデュケーション」の創業者・税所篤快さんが、「究極の突破力!最高の授業を世界の果てまで届けよう」と題し、パングラデシユにおける教育の現状や取り組みなどについて講演。パネルディスカッションには3名の起業家が登壇し、「革命前夜 地方にかけている視点と武器は何か」と題して地方における可能性と課題について討論。本学の大谷学長は、客員教授に就任した2008年から現在まで取り組んできた社会人向け講座「起業家養成講座」の10年を振り返りました。イベントの最後には起業家養成講座の卒業生によるパネルディスカッションも行い、八戸地域在住の起業家がいままでの取り組みや展望を語り合いました。

専攻科 平成 29 年度技術講習会



自動車科の学生に対して、自動車の最新技術情報と最新の整備技術を習得させるために、各自動車メーカーの方々に、各自動車メーカーの方々をお招きし技術講習会を実施しています。受講した学生からは「大変勉強になる」、「次回も参加したい」、「理解しやすい講義だった」等の感想が寄せられました。



今年度は、株式会社スズキ自販青森様 青森三菱自動車販売株式会社様 マツダ株式会社様 株式会社ヤナセ様 株式会社青森ダイハツモーターズ様 がご指導くださいました。ご多忙にもかかわらず、ご指導をしてくださった各企業の皆様方には深く感謝申し上げます。

大学 未来デザイン県民会議「知事とのチャレンジゼミナール」 [12/21]

未来デザイン県民会議「知事とのチャレンジゼミナール」は、三村申吾青森県知事が大学生と県政の課題について意見交換を行うものです。本学で開催された「知事とのチャレンジゼミナール」では、「人口減少社会に対応するための健康づくり」をテーマに、所属ゼミ等において実践してきた調査や活動を踏まえ、青森県民の健康づくり、生活習慣の改善等に関する解決策、自らが実践したい活動、県と協働で取り組みたい内容について提案しました。各グループの提案テーマは次の通りです。

- ①健康の革命家 キーマンは「中高年女性」
②スポーツを通じた子どもの体力育成と健康づくり
③自然を活用した健康増進活動
④海藻食の再評価と普及についての提案
⑤口腔セルフケアの習慣化(主体性の向上効果)
⑥介護度の進展防止のための運動支援に関する提言



三村知事と発表者で記念撮影



授業風景

各グループの発表後、県の各政策担当、三村知事から踏み込んだコメントいただきました。発表した学生、聴講した学生にとっては、普段の講義では得られない貴重な学びの場となりました。

大学 地域文化論～八戸市を輝かせる戦略～ [1/24]



講義終了後、東北フリーブレイズの選手と記念撮影

「地域文化論」は、八戸市公民館々長である梶谷伸夫先生を講師に①地域文化の歴史特性、②地域発展に貢献した先人の事例、③地域活性化の現状の解決策など、八戸について学修することを目的としています。最終講義は、連携協定を結んでいる東北フリーブレイズの選手20名も参加、大谷学長が講師を務め「八戸市を輝かせる戦略」を学生と共に受講しました。県外出身の学生は「八戸が商業的・観光の面などで優れている話を聞き、八戸の魅力を様々な人達に伝えたいと思いました。」と述べていました。



ビジネス学部4年 志賀 祥樹さん

東北フリーブレイズと契約

ビジネス学部3年の志賀祥樹さんがアジアリーグアイスホッケーに所属するアイスホッケーのクラブチームである「東北フリーブレイズ」に選手登録されました。産学連携育成選手ということで以前から練習には参加していましたが、1月6日の試合から出場可能になりました。「小さい頃からの夢であったアイスホッケーのクラブチームに入団できて大変嬉しく思っています。入団できたことに満足するのではなく、これからも一生懸命練習をして、活躍できるように頑張りたいです。そして、今まで支えてくれた親や、周りの方々に感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。」志賀さんの今後のご活躍に期待が高まります。

光星高 WINTER CUP 2017 アベック出場！ (男子・女子バスケットボール部)



全国大会の初戦は山口県代表、県立豊浦高校。最善の準備を尽くし、勝つイメージをもって臨んだ全国大会。最終スコアは67-61でまたもや全国の一戦の壁を破ることができなかった。今年のチームは全国選抜大会初出場、インターハイ、全国選手権大会と3季連続で全国大会に出場し、光星の新しい歴史を作った。しかし、今年の結果とは逆で、1月の新人戦、春季大会と弘前実業に30点差で大敗し厳しい状況からスタートした。そこから3年生を中心にチームとしてよくまとまり、ここまで来た選手たちを誇りに思う。指導して5年。チームとして全国大会に数回出場

全国で勝つ喜びを



するところまでできた。切磋琢磨し、次こそ全国で勝つ喜びをチームで味わいたい。

監督(男子) 佐々木彰彦

八戸勢にとっては実に23年ぶりのインターハイ出場、もちろん我が光星高校女子チームは初の全国大会出場である。

「初戦を突破し、昭和学院と対戦して全国の強豪から学ぶ」を目標に、1回戦鳥取県代表の倉吉北高校と闘った。インターハイとインターカップをあわせて50回以上の出場回数を誇る名門校。序盤こそ「初戦のもどかしさ」が目立ったが、指示した4つの作戦をきっちりやってのけて勝利することができた。

そして2回戦、ウインターカップ優勝3回の、これぞ高校バスケの強豪校として知られる千葉県代表の昭和学院。「思いっきり闘おう！」の合言葉通り、スタメンの平均身長差が10センチもあるチームとガチンコ勝負をしてくれた。選手層の厚さや個々のレベルの違いがあり敗退したが、「魂のこもった勝負」は見事であり、その姿は眩しかった。

「さわやか光星」が初の夢舞台へ

監督(女子) 小野寺實



専攻科 平成 29 年度研修旅行

専攻科では、専門知識を深めることを目的に研修旅行を介護福祉科は毎年、自動車科は2年に1回実施しています。

自動車科は、東京モーターショーを介護福祉科は東京ビックサイトで行われた国際福祉機器展を見学、更に都内の特別養護老人ホームと障がい者支援施設の複合福祉施設等を見学いたしました。



野西高 「戊辰・野辺地戦争」について (工業系3年 坂本風さん) [12/25]



青森市で「第四回青森総合学科高等学校研究発表会」(県内6校・12グループ参加)が行われました。本校からは校内の学習成果発表会の子選会を経て坂本風さん(工業系3年)が「戊辰・野辺地戦争」(指導教諭・旗谷寿逸先生)のテーマで発表を行いました。

発表内容は、地元「野辺地戦争」の史跡があることから、南部藩(幕府側)と弘前藩(新政府側)の対立をたどるもので、当時の時代背景・戦況などが理解できる発表でした。

審査員や参加した先生方・生徒から郷土の歴史の詳細に目を向けた点が優れていると好評を得ました。発表者は、「詳しい郷土の歴史が学べて良かった」と感想を述べました。

光星高 地域に貢献



運動会や防災訓練で活用されます

白銀町内会
白銀公民館へ
プラカードと椅子を寄贈
(工業技術コース生徒作品)



高齢者用椅子(杖を入れる穴をつけ工夫しました)



八戸第一養護学校へ
カラーリング用具
(工業技術コース生徒作品)
段ボール遊具
(福祉コース生徒作品)



聖アンナ みんな大好き！造形のお庭～造形のお庭の1年～



ぶどう染め、うまくできるかな？



光文字

聖アンナ幼稚園では八戸学院大学短期大学部 池田拓馬先生を講師に、『造形のお庭』に取り組んでいます。今年度は、「たまご磨き」「光文字」「ぶどう染め」「手の中の形」「混ぜ色」と、いろいろな作品づくりに挑戦しました。中でも「ぶどう染め」は、幼稚園で収穫したぶどうの皮をつかってハンカチサイズの布を染めました。ぶどうの皮を煮た鍋に一人ひとり布をゴムで縛ったものを浸しながら作り上げました。染め上がったハンカチは、縛ったところが模様になり、とてもきれいに染まっ



「手の中の形」では、幼稚園で一番小さな学年の満3歳児も参加しました。土粘土を使い、感触を味わいながら握ってできた形に目をつけて。満3歳児ならではの、純粋に粘土の感触を味わうことを楽しみながら作っていました。満3歳児から年長児まですべての園児が参加できる造形のお庭。参加した子どもたちは、創造力を豊かに作品を作り上げていきます。その表情はいつも真剣で、出来上がった作品に驚きと満足感が目に見えていました。次はどんな作品ができるのか、とても楽しみです。



たまご磨き
手の中の形 (写真左上)
ぶどう染め、完成！ (写真左下)

八戸学院幼稚園 親子で楽しむ参観日～一年の締め括り・連携教育～ [2/5～9]



初めての逆立ち
ナイスアシスト！

最後は本気モードで
ドッジボール親子対決！

年長組
カワイ体育教室指導員による体育教室



等身大の型取り
ポーズはバッチリ！
「ママ、早く描いて！」

陶芸用粘土を
ギュッと握って
不思議な人形の
出来上がり！

年中組
八戸学院大学短期大学部美術教員による造形教室

年間を通して毎月行われている法人内上級学校の教員や外部専門講師による教室を、今年度最後の参観日で親子一緒に楽しみました。出来るようになったことに自信を持って行い、専門的な活動による刺激を受け、親子で楽しく活動しながら成長を喜びました。



ダンスの最後は
親子でギューツ！

リズムに合わせて
手と手をパチン！

年少組
音楽指導員による音楽教室

絵画展「学校賞」表彰式！ [1/24]

ドコモ未来ミュージアム絵画展で、県内一園のみが選ばれる「学校賞」を受賞し、表彰式が行われました。子どもたちの楽しい発想表現が評価され、賞をいただいたことで、更に意欲を持って絵画活動に取り組んでいます。



曲に合わせて
ストレッチ！

ママの真似っこ
上手にバランス！

満3歳組
幼児体育指導士による親子ピクス

3園合同 八戸学院3幼稚園合同研修会 [1/9]



毎年、法人内の3幼稚園では教職員合同の研修会を行っています。今年度は札幌市教育委員会幼児教育センターより指導主事松井泰子先生をお迎えして「保育の質の向上を図る」という演題のもと、学びを深めました。第1部の講演では新幼稚園教育要領について分かりやすく解説していただき、第2部では参加者全員でビデオカンファレンスやグループ討議を行いました。園を越えて互いに子どもの見方や保育のあり方を見つめ直す良いきっかけとなりました。

八戸学院3幼稚園合同研修会

第1部 講演
「保育の質の向上を図る」
札幌市幼児教育センター
指導主事 松井 泰子 氏

第2部 ビデオカンファレンス、グループ討議



第二ののめ お兄さん、お姉さんと一緒に！



ビニール風船
楽しいな♪

創作ゲーム、
ゾンビごっこ

八戸学院大学短期大学部 澤井ゼミの学生と一緒にダンスやゲームを楽しみました。学生の考えた創作ダンスやゲームを通じて、みんなでも体もワクワク、笑顔いっぱい交流を深めました。

第二ののめ 少年自然の家で「昔あそび」



バイキング
おいしかったよ！

運転手さんから
糸の巻き方を
教えてもらったよ

種差少年自然の家でたくさんのお兄さんお姉さんに触れられました。けん玉やわなげなど慣れ親しんだ昔あそびから、ぼっくりや竹馬など初めて触れるあそびもあり、興味をもって取り組んでいました。保護者の方、運転士さんもお手伝いしてくださり、子どもたちの元気いっぴいな声が体育館中に響きわたりました。昼食のバイキングでは大好きなからあげと炊き込みご飯で笑顔いっぱい、お腹いっぱい充実した日となりました。



学生が作った手書きPOP

大学生の本離れが進んでいることが浮き彫りになっているデータがある。大学生協連合会の学生生活実態調査の報告では、大学生の読書時間が「0」との回答が、2014年の約40%から2017年は49・1%と約10ポイント近く上昇し、約5割の学生が「全く本を読まない」と回答した。NHKのTV番組「クロローズアップ現代」では「広がる『読書ゼロ』というタイトルで大学生の読書離れについて特集した。その中で「現代の学生は、自分の意見を筋道を立て

「読書推進」への取り組み

て述べるスキルが減ってきている」と示唆している。しかし、その一方で「本は読むべきだ」と考えている大学生は約8割というデータもあり、「本を読むべきではない」と考えているのはごく少数であることがわかる。

読書は、個々のパーソナリティが重要視される時代になったことで「知識」と「教養」を身に付け、語彙力、表現力を養い、人間力を向上させていくものであり、今後の社会の最大の資源である。図書館としては、昨今の読書離れと言われている事態を憂慮し真っ先に取り組んだ活動は「読書がしたくなる環境づくり」である。

多くの学生が「読書に対する苦手意識」を強く持っているため、本を直接薦めても興味を持ってくれないのではないかと考え、自然と学生が本に触れる機会を増やすことに重点を置き、そのための導線作りから始め、まず館内の入口正面に展示コーナーを設置した。

一つはその時々話題性のある本や図書館が選書した本を配架する「旬」コーナー」を設け、2017年度本屋大賞ノミネート10作品の他、ビジネス書や自己啓発書などの一般書を並べた。二つ目はテーマを設けて図書を展示する「特設展示コーナー」を設置し、「芥川賞・直木賞・本屋大賞受賞作」特集として約40冊の受賞作を展示・貸出した。その後、二月毎にテーマを変えて機動力のある展示を実施した。今年度最後のテーマとして「3・11東日本大震災特集「キロクをキオクに」」の展示を予定している。

5月～6月	芥川賞・直木賞・本屋大賞受賞作特集
7月～8月	アスリート・指導者たちの世界
8月～9月	戦時中・戦後を生きてきた人たち
10月～12月	第2回映画・ドラマ原作本
12月～2月	就活を意識したときに読む本特集
2月～4月	第3回東日本大震災特集「キロクをキオクに」



特設展示コーナー

さらに特設展示コーナーに並べてある本にワークスタディの学生が作った手書きPOPをつけて紹介した。POPは短い紹介文ではあるが、本を安心して借りられるための道標となる情報源であり判断材料となっている。特に手書きであることで特別感を与えたり、認知度の低い本に対する興味を持ってもらえるなどの効果があり、結果として自分では選ばないような本を読むきっかけになっている。

八戸学院図書館

る。その他にも「新書」の蔵書を増やし、配架方法も今までの背表紙のタイトルが見える陳列から興味を惹くように面陳列での配架に変更した。その他にも新たにインフォメーションコーナーを設置し、「おすすめ本」などの多くの情報を提供した。

その結果、学生への貸出状況は「小説など文学系の本」が2014年の160冊（全体283冊）から2017年は409冊（全体697冊）と大幅に増加した。今後も読書を推進する立場として、本と触れ合う環境を増やし一冊の本との出会いを提供していきたいと思う。



インフォメーションコーナー

《卒業・卒園式／入学・入園式 日程》

【卒業・卒園式】

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部	3/19 (月)	14:00～	八戸プラザホテル	アーバンホール
八戸学院光星高等学校	3/1 (木)	10:00～	高校体育館	
八戸学院光星高等学校専攻科	3/13 (火)	11:00～	八戸パークホテル	
八戸学院野辺地西高等学校	3/3 (土)	10:00～	高校体育館	
八戸学院幼稚園	3/15 (木)	9:30～	幼稚園	
八戸学院聖アンナ幼稚園	3/18 (日)	10:00～	幼稚園	
八戸学院第二しのめ幼稚園	3/17 (土)	10:00～	幼稚園	

【入学・入園式】

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部	4/6 (金)	14:00～	八戸市公会堂	
八戸学院光星高等学校	4/7 (土)	13:30～	高校体育館	
八戸学院光星高等学校専攻科	4/10 (火)	10:00～	八戸学院大学	5号館 520 講義室
八戸学院野辺地西高等学校	4/8 (日)	10:00～	高校体育館	
八戸学院幼稚園	4/10 (火)	10:00～	幼稚園	
八戸学院聖アンナ幼稚園	4/8 (日)	13:00～	幼稚園	
八戸学院第二しのめ幼稚園	4/7 (土)	10:00～	幼稚園	

《イベント情報》

＜第5回＞
八戸学院大学健康医療学部・八戸学院大学短期大学部看護学科
— 公開講座 —
『健康を考える』
～江戸期から未来へ～
【日時】平成30(2018)年3月3日(土) <14:00～17:00>
【会場】八戸ポータルミュージアムはっち 2階シアター2
【受講料】無料 【申し込み】事前申し込み不要

<14:00～14:15> 開会のあいさつ
司会 守人 先生 (健康医療学部長・教授)

<14:15～14:45> 『江戸期の看護』
講師 矢野 章永 先生 (健康医療学部看護学科 教授)

<14:45～15:20> 『未婚社会における独身者の精神健康』
講師 山本 雄大 先生 (健康医療学部人間健康学科 講師)

<15:40～16:10> 『笑いと健康』
講師 小笠原 瑠子 先生 (短期大学部看護学科 教授)

<16:15～16:45> 『「次世代型医療福祉イベント」～「未来への道しるべ」～
～岐路に立つ「福祉」のこれから～』
講師 熊谷 大輔 先生 (健康医療学部人間健康学科 講師)

<16:50～17:00> 閉会のあいさつ
経田 由美 先生 (健康医療学部看護学科長・教授)

【お問い合わせ先】 八戸学院地域連携研究センター 〒031-8588 青森県八戸市東原13-98
TEL:0178-25-2789 / FAX:0178-25-1986 / E-mail:research@hachinohe-u.ac.jp
【主催】八戸学院大学健康医療学部・八戸学院大学短期大学部看護学科

HACHIGAKU 八戸学院大学 / 八戸学院大学短期大学部
OPEN CAMPUS
3.10 sat
10:00-14:00
実保野 キャンパスで体験しよう！

OPEN CAMPUS PROGRAM
●体験授業 ●キャンパスウォーク
●学食体験 ●在学生とのフリートーク
●個別相談 ●保護者向けプログラム ほか
※送迎バス運行あり

《受付・お問合せ先》
八戸学院大学・八戸学院短期大学部
キャリア支援課 電話 0178-30-1700



法 官 新 一
Shinichi Hogan

フィリピンのカリテル科
学教育財団理事長アレナス
理事長、副理事長で奥様の
テレマさん、CNEI代表
のガリー・アレナス氏と
その奥様エレナさん（CNEI
ロシア代表）CNEI

日本代表の井坂氏をお迎え
しました。
昨年1月、フィリピン訪
問からちょうど1年、互い
にこれから始まる両国間の
教育事業を進展していく上
で重要な関係ができたこと

をうれしく思う。特に両夫
人は親しみのある屈託のな
いお人柄で旧知の関係のよ
うであった。懇談は今後の
明るい展望を感じさせてく
れる意義あるものでした。

飼牛正親先生を偲んで

十二月二十五日 逝去
光星学院高校教諭、野辺地
西高校校長、法人理事を歴任
され、特にサッカーの指導者
として青森県サッカー界を牽
引し、多くの選手、指導者の
育成に貢献されました。去る
12月30日の告別式では、多く
のOB、教え子たちが涙で見
送りました。享年75歳

アレナス理事長ご一行を迎えて

【平成30年1月19日】



調印式を終えて



実習用人形を抱いて
(8号館母性・小児実習室にて)



笑門 来福

一月のカレンダーに
歌人 俵 万智
の作品があった。

無垢、無邪気、無心、無防備、
笑顔とは
無から生まれるものなり
とおもえり

昨年末から角界の暴力事件
が毎日マスコミを騒がせた。
とりわけ貴乃花親方の表情に
は相撲ファンならずとも悲観
した。それが1月29日のイン
タビューで一転した。コメン
トの中身はどうであれ親方に
笑顔もどった。相撲道に取
り組む真剣な構えと弟子の指
導に当たる心意気がくみ取れ
る。そして親方本来の笑顔が
周りを明るくする。
以前、何かの折に「笑顔」
について話したことがあった。
いつも送られてくるキリス
ト教新聞に「喜びが得られる
のは、出会いや他の人との人
間関係からです。それは、受
け入れられ、理解され、愛さ
れ、愛されていると感じ、他
の人を受け入れ、理解し、愛
することによって生まれま
す。」そして、「お願いですか
ら、酔潰けのトウガラシのよ
うな顔をしたシスター、神父
にはならないでください。」と
教皇は強調した。
また、日本では「笑う門に
は福きたる」と言います。良

い顔は心身ともに健康の証。
教育の力は教員の力。そし
て、教育環境・サービスも学
院の教育を支えているのは、
教職員の力です。その人が有
する人柄に支えられています。
間もなく始まる新年度、学
院が笑顔に満ちたキャンパス
でスタートできることを望み
ます。



園児からのプレゼント



カンボジア研修旅行
報告会に参加して【1月19日】

60周年記念行事の最後はカン
ボジアへの研修旅行。その報告
会があるというので参加させて
いただいた。
この記念旅行呼びかけに光星
高等学校後援会等外郭団体を中
心に10名が参加し実施された。
世界遺産アンコールワット見学
と本学院とゆかりのあるタサエ
ン村訪問という旅程である。
シエムリアップからタサエン
への特別企画は現地で支援活動
を続ける高山良二氏（IMCC
D理事長）の特別なはからいで
通常の観光では到底ありえない
視察や留学生との再会があり、
どの参加者からも「百聞は一見
に如かず」の一致した報告で
あった。
平成22年（2010年）、留
学生受け入れから始まったタサ
エン村との交流はその後毎年光
星高校に1名の短期留学生を受
け入れている。ホストファミ
リーには本当にご苦労を掛けて
いる。タサエンの旅、第二段の
企画がされたら参加してみたい
いかがでしょう。きっと新しい
発見があると思います。

